

# 第1学年2組 国語科学習指導案

令和5年9月26日(火) 5校時

場所 2階1年2組教室

授業者 西野 みのり

## 研究主題

自分の考えや思いを伝え合うことのできる児童の育成

～国語科における伝え合う力を伸ばす学習を通して～

## 分科会の目指す児童像

～多様な意見を受け入れ、考えを広められる子～

1 単元名 「くまの子の気持ちを考えて、手紙を送ろう」

教材名 「かいがら」

## 2 単元の目標

場面の様子に着目して、人物の行動を具体的に想像することができる。

## 3 単元の評価規準

| 知識・技能                | 思考・判断・表現   | 主体的な学習に取り組む態度   |
|----------------------|--|---|
| ①語のまとまりに気を付けて音読している。 | ①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。<br>②「話すこと・聞くこと」において、互いの話に興味をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 | ①これまでの学習で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像している。<br>②登場人物になったつもりで日記を書いたり会話したりしようとしている。 |

## 4 児童の実態

本学級の児童は、これまでに『あめですよ』や『とんこととん』で、挿絵を手がかりに場面の様子を思い浮かべたり、人物の気持ちを考えたりする学習をしてきた。また『みんなに話そう』では、発表したいことを文章でまとめて話す学習をしてきた。そのため、クラスの8割程度が自分の意見や考えを発表したり、意見を聞いたりすることはできる。しかし、発表をただ聞いているだけで、多様な意見を受け入れたり自分の考えを広げたりできる児童は全体の2割程度にとどまっていることが課題である。そこで、本単元では『いっしょ・なるほどカード』を用い、意図的に多様な意見を受け入れたり自分の考えを広げたりできる場を設け、多様な意見を受け入れ自分の考えを広げられるようにしたい。さらに、『なりきり日記』で主人公になりきって率直な気持ちを日記に書くという言語活動を設定し、多様な意見を出し合えるようにする。場面の様子や人物の行動をもとに、主人公の気持ちを考え、出し合うだけでなく、多様な意見に触れる楽しさを感じられる児童を育成したい。

## 5 単元観、学習指導要領の位置付け

この単元における重点事項は、学習指導要領における「思考力、判断力、表現等」の読むこととの「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」である。物語を読むことを通して、場面の様子や登場人物の行動など内容の大体を捉え、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することである。本単元では登場人物になりきり、場面での気持ちを振り返ったり、伝え合ったりする主体的・対話的な活動を通して多様な意見があることを知り、自分の考えを広げていくことをめざす。本単元での活動を通して人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力をさらに高めていく。

## 6 単元指導計画 (5時間扱い)

| 次 | 時         | 主な学習活動<br>①=第一段階の読み<br>②=第二段階の読み<br>③=第三段階の読み | ・指導上の留意点   |
|---|-----------|---|--|
| 1 | 1         | ○初発の感想を書く。内容の大体を捉える。①                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「登場人物に手紙を書く」くまの子になりきって「なりきり日記を書く」という、単元のゴールをもつことができるようにする。</li> <li>・貝殻について尋ねるなど、物語のイメージができるようにする。</li> </ul>                                      |
| 2 | 2         | ○くまの子が「ああ、ぼくといっしょだ」の気持ちを想像して、会話の続きを考える。②      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・動作化をして、くまの子の気持ちを想像しやすくする。</li> <li>・たくさんの考えを、子どもたちに味わわせるために、ペアでの交流の時間を短くし、全体での交流を長めにとる。</li> <li>・「書く」活動を、「日記帳に書く」ようにして、「書く」活動の抵抗感を減らす。</li> </ul> |
|   | 3<br>(本時) | ○貝殻を持ち帰って一生懸命なやんでいたくまの子の気持ちを考える③              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書く」活動を、「日記帳に書く」ようにして、「書く」活動の抵抗感を減らす。</li> <li>・子どもたちが、スムーズに交流できるように、前回と同じ伝え合いの時間を確保する。</li> </ul>   |
|   | 4         | ○「ほんとうにありがとう。」といわれたくまの子の気持ちを考える。②             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが、スムーズに交流できるように、前回と同じ伝え合いの時間を確保する。</li> </ul>   |
| 4 | 5         | ○くまの子に伝えたいことを手紙に書く。                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・くまの子に伝えたいことを手紙で表すことができるように、今までのくまの日記帳見返す。</li> </ul>   |

7 本時 (3/5)


(1) ねらい

- ・くまのこが一生懸命考えたり、悩んだりした上で、自分なりの決断をしていることを表現できている。
- ・友達が発表した考えを、よく聞き受け入れることができる。

(2) 展開

|   | ○具体的な学習活動・予想される児童の反応<br>※読み解く力に関わる児童の反応  | ◇指導上の留意点<br>■学習活動に即した具体的な評価規準(評価方法)   |
|---|--|---|
| 導入<br>5分                                    | ○前時の学習を振り返る。<br><br>○第一場面を音読する。<br>教科書P114～P116まで、一斉読みをする。   | ◇前時の『なりきり日記』を紹介し、前時の学習を思い出して、本時に学習への意欲をもつ。<br><br>◇くまのこの行動を確認しながら、児童がめあてに向かって、考えられるように促す。   |
| <p>なやんでいるくまのこのきもちを「くまのこにつき」にかいて、つたえあおう。</p> |  |   |
| 展開<br>35分                                   | ○悩んでかいがらを持ち帰った場面をみて、くまのこのきもちを考えて発表する。<br><br>○くまの子になりきって、いっしょうけんめいかんがえた時の気持ちを考える。<br>(1) 『なりきり日記』を書く。<br>・じぶんとおなじのがすきなのか。こまったな。(困った系)<br>・ももいろだったらあげようとおもったんだけど。どうしよう。(困った系)<br>・たいせつなものだから、やっぱりあげたくないな。(あげられない系)<br>・うさぎちゃんがすきなら、あげようかな。(あげる系)<br><br>(2) 全体で考えを伝え合う。 | ◇教師が動作化し、イメージできるようにする。<br><br>◇書き出せない児童には、個別に感想を聞き、話したことを書くようにする。<br><br>■くまのこがいっしょうけんめい考えたり、悩んだりした上で、自分なりの決断をしていることを表現できているか。(プリント)<br><br>◇友達の意見を聞いたのち必ず『いっしょ・なるほどカード』を用いて、リアクションをする。 |
| まとめ<br>10分                                  | ○振り返りをする。<br>・いろんな考えがあって、たのしかったです。<br>・○○さんの考えがおもしろいなおもいました。   | ◇本時のめあてを達成できたか、できなかったか挙手をして振り返りを行う。   |

8 板書計画




しまったな

あげたくないな

あーどうしようかな

くまのは、どうしようかとおもいました。  
 そくて、かいらをそとてまて、うちへかえりました。  
 そのち、くまのは、いっしょけんめいかんがえました。



9/26

かいら③

くまへ  
 なやなごころのわがやの「わがやの」の  
 にから、したえやう。




「あ、ほへいっしょだ。」

「じゃよ。じゃがらちびとすか。」

「わがやさん、わがやさん。」

9 ワークシート

「ふりかえり」

〇 がつ 〇 ちび ( ) ( ) てんき

-----  
 -----  
 -----  
 -----  
 -----  
 -----  
 -----

